

「非常に残念。四年越しの構想だったが……」。東金市、山武市など六市町でつくる山武郡市広域行政組合の植松憲一事務局長は九十九里地域医療センター(仮称)構想の白紙撤回に落胆を隠せない。地域の悲願だった救急患者を受け入れる拠点病院の設置が遠のき、「医療充実は一からやり直さ」と嘆く。

自治体間で対立

同センターは県立東金病院に代わる四百床の中央病院を東金市内に設置。周辺の国保成東病院、大網病院は病床数を削減したうえで支援病院として運営する。中央病院は二十四時間の救急受け入れなどを実施し、支援病院は地域の一般診療を担う構想。特に高度な医療を除いて地域内で医療が完結できるようにする計画だった。

しかし二月中旬の会合で、センター長の権限を

巡って東金市の志賀直温市長が「医師確保のため人事、予算、各病院の病

床数の割り振りなどの権限を持たせるべきだ」と発言。これに対して成東武地区の二市と九十九里、大網白里、芝山、横芝光の四町で構成する。千

葉市から組合のある東金市までは電車ですわすか三十分ほどだが、県内でも医師不足が深刻な地域も最低水準だ。

以上が集まる。山武地域には約二百人しかおらず、医師数は千葉県内でも最低水準だ。

特に深刻なのが救急現場だ。同地域では一九九八年から夜間・休日の救急搬送を民間も含めた六病院が持ち回りで担当する。二〇〇六年の厚生労働省の調査によると、千葉県の人口十万人あたりの医師数は全国平均の約二百六十人に対し、百五十三人で全国ワースト三位。県内でも千葉市や東葛など都市部に全医師の半数

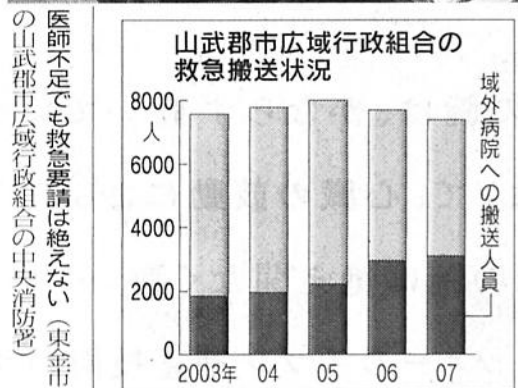
瀬戸際の地域医療

上

医師数は全国平均の約二百六十人に対し、百五十三人で全国ワースト三位。県内でも千葉市や東葛など都市部に全医師の半数

防本部警防課の鈴木孝行副主幹は唇をかむ。〇二年に二割強だった地域外の病院への搬送率は〇七年には四割を超えた。必死で病院を探しても医師からは「なげうち運ぶのか」。患者の家族から「近くの病院に運べ。助ける気があるのか」と容赦ない言葉が飛ぶ。

山武郡市統合の新病院白紙に



派遣医師の引き揚げを進めた。その影響で国保成東病院が〇六年三月、内科医不足を理由に輪番制を抜けた。

他病院での救急患者の受け入れ縮小もあり、現在は一カ月のうち二十日間に夜間、休日の内科診療に穴があき、事実上機能停止している状態だ。

「受け入れてくれる病院を探すのに十回の交渉があった」と指摘する。セ

山武地域で起こっている救急体制の崩壊は地域医療の現実を象徴している。全国で医師不足が深刻になり、毎日の暮らしにも大きな影を落としている。医師を呼び込み、医療を充実するには何が必要なのか。現状と課題を探る。